

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700018		
法人名	有限会社 あいケア		
事業所名	グループホーム・恵那苑		
所在地	岐阜県恵那市大井町字野越2729-490		
自己評価作成日	平成21年11月17日	評価結果市町村受理日	平成21年12月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2191700018&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2191700018&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成21年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・建物は一般の家屋を使用していて温もりのある日当たりが抜群の立地にあります。          ・騒音もなく静かで、一歩外に出れば恵那山が一望できます。冬になると縁側で日向ぼっこができた          り、利用者に洗濯干しを手伝っていただいたり家事をりハビリの1つとしてアットホームな感じで毎          日過ごしています          ・家の周りには花壇や畑があり、作業が行える時には草むしり等行う時もあります。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者の平均年齢が90歳を超しているが、ひとりの寝たきりの利用者を除けば、他は皆自力で歩          行をし、車いすの利用者はいない。自力歩行が可能とはいえ、足腰が弱ってきた利用者の外出欲求は          少ない。外出しなくとも、庭木の紅葉に秋を感じ、恵那山の頂に白いものを見つけて冬の訪れを知る。          利用者は、いながらにしてホーム内から四季の移ろいを感じ取っている。          家族からは、非常に満足感のあふれるアンケートが届いた。利用者や家族の期待・要求を事前に把          握し、先手を打ったきめ細かなケアによって信頼感や感謝の気持ちが生まれている。          ケアの充実ぶりに比較すれば、文書管理や介護計画の作成等に改善の余地は残るが、焦らずに取り          組んで欲しい。当面の課題は、来春に予定されている新ホームへの円滑な移行である。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい る (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔 軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム内に掲げ、いつでも確認できるようにになっています。更にミーティング等どのように実践につなげていけるか話し合いを行っています。	玄関を入ると正面に「個人を尊重し…」で始まるホームの理念が掲げてある。「…人生を優しく支えます」の言葉通り、平均年齢90歳を超えた利用者に、たおやかな時の流れを提供している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会や防災訓練等の開催時には声をかけてもらっています。代表者のみでも参加するようにしています。	高齢に加え、寝たきりとなってしまった利用者の存在もあり、ほとんどの利用者が地域へ出ていくことがなくなってしまった。「少し前までは…」と声を詰まらせた職員の気持ちが察せられる。	数ヶ月後には2ユニットとなって新天地へ移転することとなる。新たな地域への取り組みに期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター・社協他からの講演・勉強会の案内が来るので、職員に呼びかけをし、できるだけ参加をお願いしています。その後ミーティングで感想を聞き、ホームで役にたつように話し合いをしています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議を年に6回程度開催するよう心がけています。会議の報告はミーティングで話し合いをしています。	運営推進会議が不定期開催となっており、本来機能を果たせない状態である。	運営推進会議も新たなホームでの再出発となるが、多様な会議メンバーを選定され、幅広く意見が集められるような体制の構築が望ましい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市(福祉課・包括支援センター)や社協からの研修・会議等に参加。介護支援相談員の訪問・行政との互いの協力がホームの質の向上に役立っています。	市の担当者については、異動等によって関係が途切れることもあるが、包括支援センターの職員のきめ細かなフォローがあって市との連携には支障がない。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は全員周知しており、何度もミーティングで都度、話しています。	足腰の達者な利用者がいないこともあって、玄関は常時施錠していない。代表、管理者は、職員の強い口調の方言が「スピーチ・ロック」とならないよう、指導を行っている。	広義では、一言で利用者を「制止」させる言葉は拘束(スピーチ・ロック)と取られても仕方がない。ホーム内のミーティングや勉強会では、徹底した事例検討をお願いしたい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等にも参加し、参加者から話を聞いたり、マニュアル等も(職員に渡し)参考にしながら話し合いをし防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じ、成年後見センター等を今後活用していきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず、代表者と管理者（不在の時には職員）立ち会いの下、家族に話をさせていただいています。例を挙げ質疑応答で双方納得した上で契約を結んでいます。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	比較的軽度の認知症利用者には本人の意見を聞いたりし、家族や外部の相談員（ケースワーカー・ケアマネ・専門医）等に相談して運営に反映させています。	きめ細かな対応を心がけているだけに、利用者や家族からの意見・要望はほとんど対処されてしまっている。ほぼ全員からの家族アンケートには、感謝や称賛の言葉だけが記入してあった。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や代表者が管理者等、個別に話を聞く機会を設けるようにしています。	代表者が定期的に時間を作って個人面談を行っている。平成12年の開設時からの職員も多く、職員の定着は良好である。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者に話をこまめに聞き、労務士と話し合いをしながら出来る限りの努力をしています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市での研修には時間の調節をしながら参加できやすいようにしています。近隣開催の場合は案内を貼ったり、声をかけて参加を促しています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等を活用し、他の事業者との意見交換・訪問をしています。グループホームだけの研修会等があると参加価値があると思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族の同意を得て面談をさせていただいて、出来るだけ色々な事を聞き出すようにしています。担当のケアマネや職員にも相談し、安心できるように関係づくりに努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族に来苑して頂き、聞き取りをしています。話を聞いて家族が一番良い方法を一緒に考え利用者が一番過ごしやすくするために努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ミーティングで事前の情報を職員で話し合いをし、対応できるようにしています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般を各利用者のペースに合わせ双方で協力し合いながら生活の支援をしています。女性の利用者には献立の参考にさせてもらえそうな知恵を会話の中からいただいています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来苑時には本人と家族水入らずでお話ができる様に支援し、終わってから家族に話を聞き(利用者が困っていないか…他)ケアに役立てています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状や手紙等の支援をしています。友達等が来苑した時に、色々な情報を集めたりし、気兼ねなく再度来苑して頂けるような声掛けもしています。	かつては友人や隣人が訪ねてきたことも多かったが、利用者が思いだせないことが多く、それが縁の切れ目になってしまった例が多い。	記憶が日に日に薄れていく利用者にとって、過去の関係の再構築は至難の業といえよう。日々の会話の中からつかんだ希少な情報(人、場所)を、大切に掘り起こしていただきたい。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の状態を常に全員把握していますので、孤立しないようにし関りがもてるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所前に家族に「お困りな事が出てきたら…」と、声掛けをしています。退所後の利用者の相談等も聞いています。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まずは利用者が納得するまで話を聞き、管理者・ケアマネ・職員・場合によっては家族等と話し合いをし、希望に添えるようにしています。	利用者同士でも、相性の良し悪しはある。いさかいやトラブルになる直前に、職員は話題を変えたり場面転換を図ったりしてその場を整えていた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけ家族から生い立ちや生活歴を聞き、ケアプランに活かし、今までの暮らしに近い状態で過ごせるように努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアマネ・担当医からの情報を職員に把握してもらい努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で個々の特徴を把握し、ケアプランを作成しています。家族の訪問時電話等で相談などもしています。	介護計画とケアの現場の連動が薄く、計画自体(目標)の評価も十分でなかった。毎回、家族からは意向が聞き取られて記録されていたが、利用者本人の気持ちの取り込みが見られなかった。	P(計画、目標)-D(現場ケア、介護記録)-C(評価、検証)-A(改善、次回計画)の連動が介護計画作成の基本ルールであることを認識していただきたい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報・申送りノート他の記録を資料とし、ケアプランに盛込んでいます。ミーティングでも話し合いをしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	色々な利用者の要望等を聞き、個々にあった対応をしています。(外出・外泊等)家族から要望があれば、できるだけ事は相談に応じ行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の心身状態を把握しながら一緒に楽しむことができるよう支援しています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族からの同意・納得をして頂き、受診をしています。時には個々の状態に合わせた病院に通っています。	全ての利用者が、ホームの提携医をかかりつけ医としている。寝たがりの利用者を除けば、他の利用者全員が通院して定期検診を受診している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回看護師に来てもらい相談・援助をしています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に何度も病院に行き、看護師の方と関係作りをしながら、色々な情報等を頂いています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には事前に家族・看護師・相談員・ケアマネ・ケースワーカー等と相談して受入れ先等の相談をしています。場合によっては医師や家族と相談し、ターミナルも視野に入れ話し合いをしています。	看取りはしない方針を持って支援している。家族からの要望には、ターミナル期も当ホームに任せたい意向があり、ホームにとっても決断を迫られる時期に差し掛かっている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成しており、職員が判る場所に設置しています。ミーティングでも都度確認をしています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一年に1度の消防職員訪問による訓練他に1度の自主訓練を行っています。	年間2度の防災訓練を行っているが、夜間を想定した訓練の実施がない。	訓練の目的を、行動の習熟、職員の能力の限界の認識、課題の抽出と、とらえ、様々な条件を想定した訓練の実施を期待したい。早期の夜間想定避難訓練が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を尊重しながら言葉かけをしています。	新たな地への移転によって解決されることとなるが、トイレが1ヶ所しかなく、ポータブル併用では、時として利用者のプライバシーが損ねられる可能性もある。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1日の会話の中から色々な場面で選んでもらえるような状況を作っています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	最低限の基本的な生活習慣の流れの中で一人一人のペースを尊重し、職員本位にならないように気を付けて支援しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は定期的に美容師に訪問してもらい、口腔ケアは毎食後行っています。洋服は利用者を選んで着てもらっています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立はなるべく利用者と相談してメニューを決めるようにしています。後片付け等は声をかけ、出来る方が行ってくれています。	かつては積極的に調理を手伝っていた女性利用者も、今では失敗が多く、刃物を持たせる場合には危険も付きまとう。それでも、失敗覚悟で利用者に機会を与え、餃子包みや野菜切りに挑戦させている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に声掛け等を行い、水分はこまめに摂っていただいています。1日の水分摂取量は記録に残しています。食事は昼食に肉をメインに夜は魚をメインにしています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の入歯、舌を洗います。入歯を洗える方は洗ってもらいますが後に洗い直しをします。週に1度は入れ歯を預かりポリデントで洗浄。場合によっては歯医者に往診をお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握(誘導チェック表を参考にしたり)しており、時間をみながら誘導しています。個々に合ったパットを使用し、なるべく下着の時間が長く続くよう支援しています。	利用者の足腰が弱ってきているため、トイレまでの歩行にも職員は付きっきりで支援している。職員の手はかかるが、極力トイレを使って排泄してもらおうとの思いが伝わってくる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操等を心掛けて行っています。自然に排便が出来る様、食材にも気を使っています。それでも出ない場合は主治医に相談し、対応しています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に利用者の希望に応えられるようにしています。ある程度は、目安の曜日を決めてもいます。(受診等がある為)	火曜日と金曜日がお風呂の日となっており、利用者は週に2回入浴している。寝たきりの利用者は清拭対応であるが、“足湯”でお風呂の気分を味わっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外出・入浴・家事のお手伝い後には特に声を掛け、休んでもらえるように和室に行きます。通常もなるべく和室にいてもらってゴロ寝がいつでもしていただけます。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が個々の薬を把握しており、間違えないように翌日1日の分を夜勤がセットしています。用法は薬局で頂くので薬の内容を読んでいます。薬の変更や追加があった場合は受診記録・生活記録に記載し申し送りしています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を活かした家事・レクの役割ができており、自ら行ってみえます。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	馴染みの方・家族・親戚の方が来苑され、喫茶店に行ったり食事・ドライブ等にも出かけています。苑の草むしりや散歩にも天気を見ながら出かけています。	かつては、利用者全員でホームの近辺を散歩する姿が見られたが、現在ではほとんど外出することがなくなった。加齢とともに足腰が弱ってしまった利用者は、室内での平安な日々で満足している。	庭の木の葉の紅葉に秋を感じ、遠くに見える恵那山の頂の雪化粧に冬の訪れを知る。利用者は、ホームの外へ出なくとも、五感を使って十分に四季の移ろいを感じ取っている。これも是か。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を預けている利用者もみえるので買い物に出掛ける際に支払が出来るようにしています。お金が昔と違っていると混乱する場合もあるので、気を付けています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	別室に行き、電話で話ができるようにしています。手紙は難しいので年賀状・暑中見舞い等を塗り絵にし、家族等に出させて頂いています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般民家なので家庭的な雰囲気になっています。湿度・温度等には湿度計を置いて管理をしています。縁側で庭を眺めながら話す時間も作っています。	民家改造のため、ホールのような大きな居住空間はない。小さな一つひとつの部屋を有効に利用することでホームが機能している。居室が通路として使われ、他の利用者が通り抜けることもしばしばである。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者それぞれに自分の居場所を作って過ごしています。時には玄関のソファでゆっくりくつろいでみえる方もいます。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時や来苑の時にご家族に持って来てもらえるように声掛けをしています。なるべく以前の自室に近い状態を作れるように心掛けています。	「夫婦部屋」と呼ばれる二人用の居室が2つある。現在では女性利用者同士の相部屋として使用されているが、お互いを意識したり、声かけ・会話が頻繁に行われるせいもあって、介護度の進行を遅らせる効果も出ている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一般家屋の為、個々の機能に全部合わせる事はできませんが、出来る限りの安全は工夫し、確保しています。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	29	夜間を想定した防災訓練の実施がない。	日中に夜間を想定した避難訓練の実施	夜間職員1人の為、1人でどのくらいの時間で利用者の誘導が出来るのか等を消防署員と相談しながら実施して行く。	6ヶ月
2	4	運営推進会議が不定期なっている。 会議メンバーがマンネリしている。	確実に年に6回、開催をしてゆく	民生委員の参加を求めて行き、尚且地域の方にも幅広く声をかけ参加してもらえるように努力をしていく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のを記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。